

## 第五回かわごえこども心臓セミナー 報告書

2019/3/16 土曜日 14:30-16:30、大講堂・ゼミ室 1

実行委員長 小児循環器部門 増谷 聡

埼玉医科大学総合医療センター小児循環器部門が、看護部、MA 部門、事務部門、総合医療センター、埼玉医科大学の協力のもと、14 時半から 16 時半にかけて、埼玉医科大学総合医療センター大講堂で本セミナーを開催いたしました。

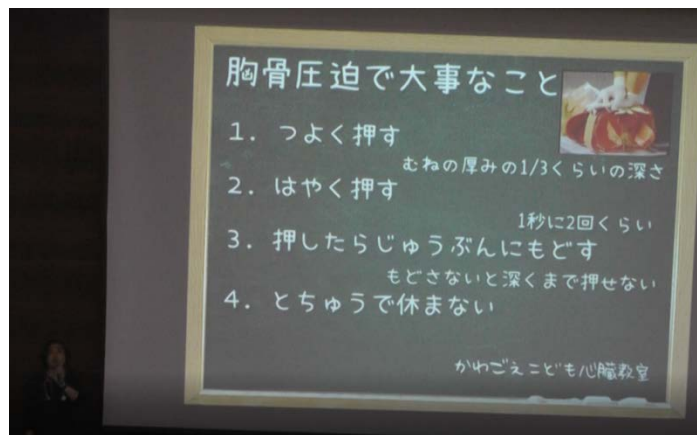
次代を担う、心臓、医学、生命科学などに興味のあるお子様に、循環・蘇生・命について学びと経験を提供し、育成に貢献することが目的です。

ごあいさつ

あっという間の二時間、楽しく学んでいってください、と実行委員長の増谷より挨拶がありました。日本光電株式会社さまから、AED トレーナーを二台お借りした旨、ご紹介いたしました。

講義 1、心臓の働きと心肺蘇生 石戸博隆講師

心臓は何をしている？、心臓が止まるとどうなる？という問いかけに、ご参加のお子様たちが積極的に挙手して答えてくれました。どんな人にやるの？、死戦期呼吸とは？ AED を使うのが怖い？などの疑問に対し、解説がありました。心肺蘇生ははじめないといけない、ということが実感できたと思います。



講義 2、心臓の画像・超音波 岩本洋一講師

レントゲンはどうやってとるか？白は水、黒は空気、といった基本の話から始まりました。放射線を使い、きれいな 3D 画像を作ることのできる CT、磁力を使い、動きもみられる (4D) MRI の話がありました。金属を MRI 室に持ち込むと危険なことを、動画の説明がありました。次の実技の導入として超音波についての説明もありました。



実技

a, 超音波で心臓の動きを観察しよう

4 つの部屋を一度に出せる断面や、輪切りの断面を各人が上手に描出していました。



b, 心臓立体模型で立体イメージをつかもう

心臓の4つの部屋と血管のつながりや、弁の構造を立体で理解しました。

4つの部屋を同時に切るエコーの断面を、どうやったら出せるかを模型で考えました。



c, AEDをやってみよう

電源の入れ方、パットの貼り方、放電前の人払い、放電の仕方などを学びました。



d, 人形に心臓マッサージ（胸骨圧迫）をやってみよう

胸骨圧迫の仕方、人工呼吸の仕方を学びました。疲れたら交代も大事ですね。



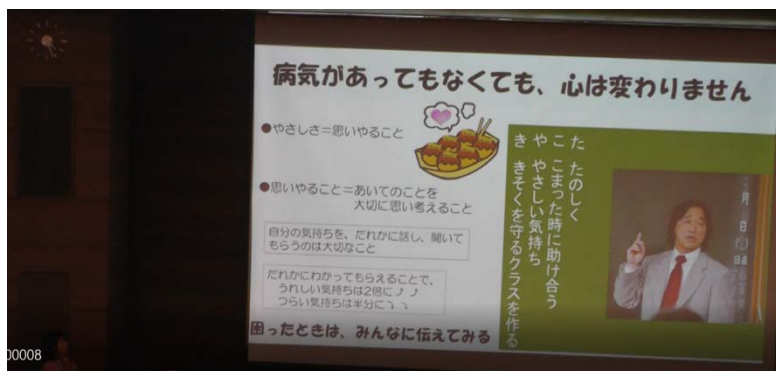
講義 3、心臓の不思議 築明子非常勤医師

心臓の大きさはどれ位？、心臓が打ち出す血液の量はどれ位？の疑問に答えていきました。体が大きい生き物は心臓がゆっくり打ち、長生き。体が小さい生き物は心臓が速く打ち、短命。結果、一生で打つ心拍は、ネズミも象もほぼ一定です。心筋細胞の収縮・弛緩が、刺激伝導系によって協調している話など、お子様たちは興味深々でした。



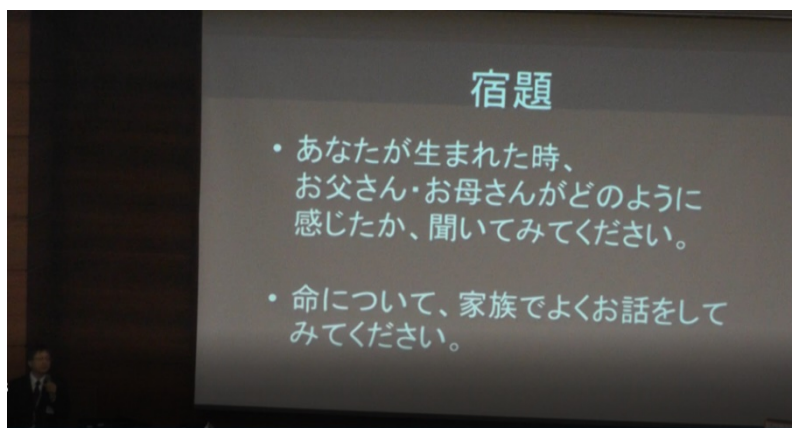
#### 講義 4、学校生活と病気 大津幸枝認定看護師

心臓病は 100 人に一人、そのうちの一部の人で運動制限が必要です。心臓以外の病気のお友達もいます。病気をもったお友達について、どう寄り添ったらよいかを一緒に考えました。病気があってもなくても、人は個々に事情があること、一人一人が特別な存在であることが説明されました。



#### 講義 5、命の不思議 増谷 聡 准教授

命はどうやって運ばれてきたか、生まれて今ここにすることがいかに奇跡的なことであるかが説明されました。人は二本足で立つようになって、もっとも難産な生き物になったことを、お産のアニメーションをみて考えました。命の終わり=死を考えることで、生きている時間を有難く大事に使い、成長と貢献につなげて頂けたらという話がありました。



参加者の皆さんは受講証を手にして、解散となりました。定員 32 名を超えるお申込みを頂き、体調不良や学校行事のため、最終 27 名、保護者様 22 名、院外からの見学の方 7 名、その他院内からの見学の方と多数のご参加を頂きました。ご協力いただきました皆様に心からお礼申し上げます。